# 日本運動処方学会賞の提案

長尾 憲樹[1、2]
[1]日本運動処方学会、[2]川崎医療福祉大学健康体育学科

各種学会においてアワードが設けられている昨今であります。運動処方学会は、健康に生活できる権利を守る為に働く現場の指導者とその教育・研究者の緊密な情報・学問的交流を行うことによって、各々の資質を向上させ、人類の健康に対するより良い貢献を目的とすると掲げています。

昨年の第十回日本運動処方学会で、一般口演 12 題とポスター発表５題の中から、十周年の記念として急遽、特別な賞を選考しました。伊藤三千雄氏（西広島リハビリテーション病院）の「短時間通所リハビリ（1～2 時間）における健康運動指導士のとり組みとその効果について」が、第十回記念大会賞として評議員会で協議され選出されました。その内容は、病院併設のフィットネスジム利用し、通所リハの利用者に対するマンツーマンでの自主トレの指導、ストレッチ等体操教室の実施、そして、同じ時間帯と空間にて、主介護者（家族）の運動指導を実施しての試みについてであります。結果から、利用者と家族において自主トレの定着率の高さ、家族の身体・精神的ストレスの軽減の大きな可能性を示唆してくれました。

ところで、データ捏造から倫理問題、特に医学界で何がおきていて、個人を特定することは、不可能なのでしょうか。

メタボリック症候群などの肥満症に効く市販薬の開発をめぐり、大阪市の病院が実施した臨床試験のデータの一部が改ざんされた疑いがあることが A 新聞の調べでわかった。被験者 72 人の中に治験を実施した病院の職員 6 人が含まれ、4 人の身長が実際より低く記録されていた。治験の条件を満たすため被験者が肥満体となるよう偽装された可能性がある。製薬会社は、申請を撤回し、事実確認を進め、病院側に法的手段を検討するとしている。

7 月 25 日の A 新聞によると、昨年、科学誌に発表された調査によると、医学生物学分野で過去に撤回された国別不正論文数は、米独に続き日本が第 3 位だった。なぜ不正が繰り返されるのか。大学教授などの職に就くためには、論文数と影響度が評価の目安になる。

さらに、7 月 31 日の A 新聞によると、J 医大は、7 月 30 日に製薬大手 N 社の高血圧治療薬ディオバンの効果を調べた同大の臨床研究の論文について、「人為的に操作されていた」とする調査結果を発表した。操作は、同社の元社員にょると強く疑われると指摘。「操作した証拠はない」とした同社の調査結果と食い違う。この臨床研究は、高血圧の日本人 3081

人を対象に実施。ディオバンは脳卒中や狭心症を防ぐ効果が高いとする論文を 2007 年英医学誌ランセットに発表した。同大は調査結果を受け、「科学論文として信頼性を欠く」として撤回が妥当と判断したという。研究室が、同社から 3 年間で計 8400 万円の奨学金を受けたことも明らかにした。その他に、K 医科大学、S 医科大学、T 大学、N 大学で実施された同様の臨床研究について調査が進められている。9 月 7 日の記事では、6 日英国学会誌ランセットは、製薬大手 N 社の高血圧治療薬ディオバンは、脳卒中などを防ぐ効果が高いとする J 医科大学グループが発表した論文を撤回すると発表した。同医大の調査報告を受け論文の結果は「もはや信用できない」とした。同誌は世界で最も権威のある医学誌のひとつである。

現代社会では個人の権利を守るために、世界的な医学研究の倫理規定としての「ヘルシンキ宣言」に始まり、各種ある学会の倫理規定、さらに個人情報保護法が存在して、暗号・記号化による個人情報保護が必要となっています。一定期間後には、個人情報のデータを廃棄することが求められています。個人が特定できない研究論文の信憑性をどのように確保できるでしょうか。

我々は、生活習慣病予防・介護予防に関して、運動と栄養の観点から現実の社会問題に直面しています。例えば、メタボリックシンドローム腹囲の基準に関して、わが国の男性 85cm 以上、女性 90cm 以上も、諸外国の基準との違いが議論されて久しいことになり、清原裕先生（九州大学医学研究院環境医学分野）は半世紀に及ぶ久山町研究から、男性 90cm 以上、女性 80cm 以上を問題としています。なにはともあれ、国が介護予防、生活習慣病予防へと舵を切ったその方向は、正しいと私は信じています。我々は、専門家への、あるいは、欧米の専門家への知識依存に陥っていないでしょうか。

日々、運動指導の現場を考え続ける人として、自分自身を見つめ続け行動するする Guinea Pig Leaders でありたいものです。その一事例、一症例が、必ずや、あとから来る者の道標としての役割を担うものであると考えています。

運動処方学会の目的に沿った、先人の理念・思考を引き継ぐための学会賞を提案します。